

2019年1月10日
ミーティング資料

理研/鶴田

剥離試験用試験片の 熱加速試験について

- 剥離試験用の加速試験は理研で行うことにした。
- 以前の剥離試験に使ったものと同じ試験片が理研に保管してあるのでそれを使って測定を行う。
- 熱測定に使うアレニウスモデルのパラメータである活性化エネルギーは公開されるものではない

→プロットから推測するため複数の試験期間（サイクル数）で測定する。

熱測定用の熱電対

- 熱測定に使う熱電対及びデータロガーの動作確認・精度測定を行った。

→ロガーの測定、測定の記録機能の動作確認は出来た。

- 公称の測定精度はロガーが $\pm 0.1^{\circ}\text{C}$ である。

熱測定用の熱電対②

- 精度測定は温度が同じものを4つの熱電対を貼り付け、表示温度の比較によって熱電対によってどれほど差が出るかを確認した。

→測定に使ったのはアクリル板で非常に接触しない程度に隣接させて測定した。

- 測定値は5分毎に記録した。

時間(分)	熱電対A	熱電対C	熱電対C	熱電対D
0	20.2	20.3	20.2	20.2
5	20.1	20.1	20.1	20.1
10	20.0	20.0	20.0	20.0
15	19.9	19.9	19.9	19.9
20	19.9	19.9	19.9	19.9
25	19.9	19.9	19.9	19.9